

■松永久秀(彈正) 下克上の典型とされ毀誉褒貶。三好長慶のもと大和支配に至り、一目置かれた信長にまで反抗して、自刃。

まつながひさひで
義植入京將軍1508＝

代々管領を務める細川京兆家の本国摂津国の東五百住村で、小土豪の家に生まれたらしい。
興福寺多聞院英俊の日記の1568年の記事に、当年61歳(満60歳)と記されているのが生年の根拠。

將軍足利義澄を擁立して覇権を握っていた京兆家細川政元に子が無かったことから、九条家から澄之、分家から高国、阿波守護家から澄元の三派に分裂していたが、この前年、政元が澄之派に暗殺されると、澄之を滅ぼして澄元に京兆家を継がせた高国が、細川家の混乱に乗じて、大内義興が介入してきたため、澄元を見限ったことから、京都に基盤を持つ高国派と、阿波に基盤を持つ澄元派の戦争が始まり、摂津の領主たちも分裂するなか、

・ ・ ・ ・ ・ 1517＝ 9歳：
義興周防帰国1518＝10歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1520＝12歳：京都等持寺の戦で、細川高国が三好之長を自害させ、細川澄元も病死するが、

・ ・ ・ ・ ・ 1522＝14歳：この年、三好之長の孫元長の嫡男として、三好長慶が誕生。

以後管領不在1526＝18歳：

天王寺合戦・1531＝23歳：澄元の子晴元と之長の孫元長が、高国を自害に追い込むものの、晴元は、突出した軍事力を持つ元長と対立して、本願寺証如と結んで、元長を自害に追い込むものの、目覚めた一向一揆によって、証如とも対立、
・ ・ ・ ・ ・ 1533＝25歳：両者の和睦を仲介した形で、元長の子で、まだ11歳だった三好長慶が登場するが、軍事的には役立たず、晴元は、三好政長を側近衆に取り立てる。

・ ・ ・ ・ ・ 1535＝27歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1539＝31歳：軍勢を率いて上洛した三好長慶は早速、騒動を起こし、將軍義晴の調停で和睦すると、占領していた芥川山城を出て、摂津下国を抑える越水城に入り、本願寺証如より祝賀を受け、摂津半国守護の地位を獲得、
・ ・ ・ ・ ・ 1540＝32歳：まだ若かった長慶を補佐する役を担うことになり、西宮千句田を寄進する旨を、弾正忠の官途を名乗って伝えたのを初出に、**管領細川晴元の家宰三好長慶に仕え始めるや、晴元から長慶の右筆とみなされ、**

今川義元登場1542＝34歳：長慶が久秀を山城から大和へ攻め込ませるとの噂が広がるなど、***軍事的にも一軍の将とみなされる。**
鉄砲伝来・・1543＝35歳：嫡男久通が誕生。**細川氏綱が挙兵して、晴元と対立すると、**
・ ・ ・ ・ ・ 1544＝36歳：

弟長頼が軍事に優れて、現場を任されたのに対し、**事務**、とくに訴訟取次ぎなど交渉能力に秀でていた。
足利義輝將軍1546＝38歳：この年には、**長慶が晴元からの独立を決意、**

ザビエル来日1549＝41歳：***弟長頼とともに、晴元を破り、將軍足利義輝を追放、長慶が細川氏綱を擁して入京すると、その“内者”として山科言継に対応し、本願寺証如から初めて禮物を贈られるなど、家臣団の最上位に位置するに至り、**
織田信長登場1551＝43歳：弟長頼とともに、近江に攻め入った後、細川晴元方の三好宗清と香西元成を破る。早くも寿像(肖像画)を作成して、南禅寺元住持の惟高妙安に、優れた人物であることを示す贊を貰い、

大友布教許可1552＝44歳：名医の誉れ高い曲直瀬道三からは、性の指南書「黄素妙論」を贈られる。晴元の義父で主戦派の六角定頼が死去して、**長慶が義輝と和睦すると、三好一族の長老長逸とともに、義輝を逢坂で迎える役を担ったが、**
川中島の戦始1553＝45歳：弟長頼が丹波八木城主になる因になった**晴元の挙兵で和睦は破綻、義輝を追放し、將軍無しに政權を握った長慶から、摂津瀧山城を与えられるも、もっぱら長慶のいる芥川山城で、主に訴訟事務をつかさどり、**

大陸邦民事件1555＝47歳：六角氏家臣の永原重興に、義輝の不誠実さを厳しくなじる書状を送って、晴元側の切り崩しも図る。
・ ・ ・ ・ ・ 1556＝48歳：**清原枝實を芥川山城に招いて講義を受け、瀧山城に御成した長慶を連歌「瀧山千句」や能でもてなし、世間から高く評価され、石清水八幡宮社家の家督争いについて、前年の幕府の誤認判決を破棄して、正当な判決が下されるように奔走し、後奈良天皇をも非難する長慶を抑えたためか、ともに禁裏修築の命令を受け、**

・ ・ ・ ・ ・ 1557＝49歳：**天皇が崩御して起きた相論に決着をつけるなど、長慶を超えて朝幕各方面から頼られる存在になり、**
・ ・ ・ ・ ・ 1558＝50歳：新年号永楽が義輝に伝えられない末期状態のなか、**武家伝送広橋国光の妹で夫一条兼冬と死別した保子を後室にして、朝廷と密接に関係、警固安全を正親町天皇に奏上し、長慶と義輝を再び和睦に持ち込み、**

大友府内開港1559＝51歳：長慶の命で、伊丹氏らと、大和の筒井順慶を攻略、順慶配下にあった柳生宗厳を自らの家臣に迎え、以後、寵愛。**家臣楠正虎の正成以来の朝敵の勅免も実現し、**

桶狭間の戦・1560＝52歳：長慶の嫡男義興の後見人として、ともに、義輝の御供衆となり、朝廷からは、弾正少弼に任じられ、
川中島最激戦1561＝53歳：義興とともに、従四位下に叙せられ、**“藤原久秀”を名乗ると、義輝からは、御紋を拝領、“源久秀”の名と、塗輿を与えられて相伴衆に準じ、義興邸に御成した義輝を饗応するなどしながら、大和平定を進め、**

大村長崎開港1562＝54歳：**三好実休が討ち死すると、義輝を石清水八幡宮に立ち退かせて、京都を放棄、奈良多聞山に画期的な城を築いて、住民が見物、徳政令を出し、春日社七ヶ夜陪從神楽を催して、興福寺数百年の支配を終焉させ、**
***筒井順慶より信貴山城を奪還。義興が病死し、後嗣が義継になるのに従って、嫡男久通に家督を譲り、**

側室広橋保子が死去。**落胆著しい長慶が死去し、義継が久通を連れて、將軍義輝に謁見しながら、**
改元しないことを名分に、三好氏と対立する義輝を、久通が義継に従って討ち取る前代未聞の事件後、
・ ・ ・ ・ ・ 1566＝58歳：**義昭を取逃がす失態を犯し、反三好勢力に名分を与えて失脚、成立した三人衆と敵対して敗れるが、**
岐阜楽市楽座1567＝59歳：**義継が寝返って、ともに多聞山城に入り、三好三人衆を攻撃した際、東大寺大仏殿が炎上する事態になるも、**

織田信長入京1568＝60歳：4年前の天文法華の乱で法華宗徒の避難先になるほど家族ぐるみの法華信仰だった母が死去。**足利義昭を戴いて入京した織田信長に礼を尽くすとともに、義昭の將軍就任に一役買って、大和一国を安堵され、**

京都宣教許可1569＝61歳：信長に倣うように、要所に市場を立てる。**三人衆が將軍義昭を攻めると、信長のものとこれを撃退、**
石山合戦始・1570＝62歳：信長の命で、禁理の修理や義昭の御用、あるいは出陣するうち、**本願寺頭如が三人衆と結んで挙兵すると、娘を織田信長の養女として三好長治に嫁がせ、篠原長房より人質出させて、和睦を成立させるが、**

比叡山焼討・1571＝63歳：**ひそかに武田信玄に通じ、三好義継と組んで、信長にそむき、**
三方原の戦・1572＝64歳：信長の軍勢に攻められるも、武田信玄が三方が原で徳川家康を破ったことから、
室町幕府滅亡1573＝65歳：**將軍義昭とも同盟するが、信玄が死去し、信長が義昭を追放して幕府は崩壊、義継も河内若江城に敗死してしまい、多聞山城を明け渡すことで信長に赦されて、再び帰服。**

長島一揆鎮圧1574＝66歳：信長が多聞山城で正倉院蔵のものから切り取った蘭奢待を受け取る。**剃髪して“道意”と号したものの、**
長篠の戦・・1575＝67歳：多聞山城を見物した島津家久によれば、大和全体が見渡せ、国人に“魅せる”城であったようだ。
安土城築城・1576＝68歳：信長により、大和が再び筒井順慶の支配地になるなか、**大坂の本願寺や毛利氏と呼応して、**

***子久通とともに、信貴山城に籠って再度に信長に抗したが、猛攻の前に陥落、久通自害の報とともに、信長の人質となっていた久通の子二人が殺害されたと聞いて観念し、自刃した。**
愛器“平蜘蛛”の茶釜を抱いて爆死したというのは俗説で、信長に久秀・久通父子の謀反は、織田政權の矛盾を露呈し、本能寺の変への端緒と位置付けられるべきものという。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「人物日本歴史館」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」。天野忠幸「松永久秀と下剋上：室町の身分秩序を覆す」で全面修正追加、